

バルーンで みんなを笑顔に

バルーンアーティスト

あややん (小川亜矢子) さん
(中片町)



「わぁー」「あややん、すごーい」。バルーンアートショーで子どもたちの憧れと驚きの声が聞こえる。

ピエロ風のメイクに、黄色と赤色を基調にした衣装を身にまとい、細長い風船をねじって手品のように次々と形にしていく。彼女は風船で動物やキャラクターなどを作るバルーンアーティストだ。「あややんはみんなと遊びたくてしょうがない、ちょっぴりドジな女の子なんです」と笑顔で話す。

「あややん」こと小川亜矢子さんは妻であり、5人の子どもの母親でもある。地元福岡で看護師として働き、結婚後は夫の仕事の都合で沖縄や大阪などを転々とした。その間3人の男の子を出産。4年前に地元福岡に戻り、四男を出産した。

ある病院に勤め始めたとき、同僚から「福岡風船の会」に誘われ、バルーンアートに出会う。「以前、子どもを連れて行ったイベントで、バルーンが欲しかったけれどももらえなくて。いつか自分でやりたいと思っていたんです」とあややんさん。毎月行われる会の集まりに熱心に参加した。

単純に作品を作ることを楽しんでいたあややんさんは、ある日、バルーン仲間



▲とまとフェスタ(2月1日)でも大人気だったあややんさんのバルーンアートショー

の手伝いで入院している子どもたちを訪問した。ショーが始まると、子どもたちの目は見る見ると輝き出し、笑顔になっていく姿を目の当たりにする。「こんなに笑顔にできるってすごい」と衝撃を受けた。これを境に、これまで以上に技術を磨き、地域の祭りでショーを行うなどバルーンアーティストとして活動を始めた。

そんな中、がんという病気があややんさんを襲う。平成22年、5人目の子どもとなる長女を出産した直後に発覚。治癒と再発を繰り返した。そんなとき支えてくれたのは家族と大好きなバルーンアートだった。隔離病棟での辛い放射線治療もバルーンでドレスを作るなどして気を紛らわせたという。

新居が見つかったことをきっかけに2年前、夫の故郷・八代市に転居してきた。昨年9月に再発の治療を受け続けながら、バルーンアートの活動を再開。エフエムやつしろの公開放送を市内初舞台に、市内外で活動の幅を広げている。

5人の子育てをしながらの活動は一人では成り立たない。「家族の協力や支えがあってこそこの活動。いつも『ありがとう』という思いでいっぱいです」と語る。

全国各地で大道芸人が集まるイベントが行われ、地域活性化につながっているという。「将来的には、私もそんな風に地域が盛り上がるお手伝いをして恩返しをしたい」と夢を語る。「知らないうちに笑ってた。楽しかった」とみんな笑顔になってくれば、それが一番うれしいと語るあややんさん。

家事の合間、時間を見つけては次の舞台の練習に励んでいる。



2015.MARCH

No.123

- 3 4月から図書館 新サービス開始
- 4 市の対応方針(最終評価)決定
- 5 市の組織が変わります
- 8 下水道使用料を改定します
- 10 暮らしの情報
- 14 市民カレンダー
- 16 暮らしの情報
- 20 広告
- 24 まちのわだい
 - 麦島勝さん くまもと県民文化賞を受賞
 - 第3回 やつしろTOMATOフェスタ
 - 八代城跡群国史跡指定記念シンポジウム
 - 八代で初キャンプ ザスパクサツ群馬
 - 彦一を食べてあるくべし
 - 八代市校区対抗駅伝競走
 - 100歳 おめでとうございます
 - 「くまモン」ラッピング列車2号
 - 親子能楽体験教室
 - 世界の料理教室
- 他6件
- 27 伝言板
- 28 新庁舎の建設地を決定

広報やつしろは、市ホームページでもご覧いただけます。

トップページ → 総合案内 → 広報やつしろ